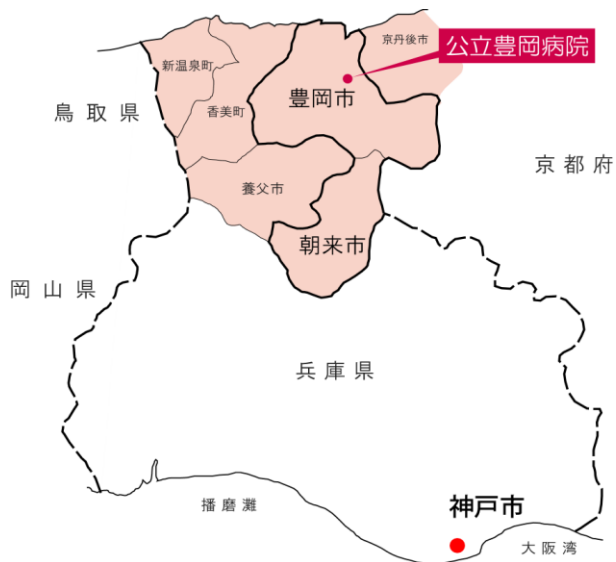


## 1. 小児科の理念・特色

### ～地域基幹病院としての当院小児科の役割～

当院が担う医療圏は、図に示す通り、但馬地域に加え、京都北部の一部を含み、人口 20 万人弱(うち 15 歳未満の小児人口約 3 万人)です。面積は約 20 万km<sup>2</sup>と兵庫県の約 4 分の 1 を占め、東京都の総面積に匹敵する広大な地域です。この中に小児科医の常駐する病院は当院を含め 3 つ、小児で入院ができる病院は 2 つ、24 時間救急対応できる病院、さらに NICU 機能を有する病院に至っては当院のみという状況です。このように新生児・小児の人工

### 当院の医療圏



呼吸を含めた集中治療や 24 時間対応できる病院が当院のみという事情から但馬の救急患児・重症患児の『最後の砦』となっています。さらに、小児専門病院(兵庫県立こども病院など)から 100 km 以上離れており、慢性疾患や継続治療が必要な特殊疾患については、専門施設との連絡を取りながら当院で継続フォローをする役割が期待されています。そのため、慢性疾患外来・専門外来にて長期継続フォローと患者教育を行っています。

## 2. 目標・プログラム

### ア. 目標とする医師像

新生児から思春期にわたる様々な疾患への対応のみならず、多職種・多機関と連携して子どもの健全な発育を支援できる総合小児科医としての医師を目標に研修を積んでいただきます。

### イ. 経験できる診療、技術

現在では珍しくなってきましたが、一般病棟と NICU の患者の担当医として並行して診療していただきます。また外来診療も行い、初診患者の診察や担

当した患者のフォローもしていただきます。症例によっては多職種、多機関と連携した医療を経験すると共に、高次医療が必要な場合、救急車、防災ヘリを利用して高次医療機関への長距離搬送を行います。

以上の経験を積むことで総合小児科医としての基礎が築かれるものと考えます。



### 3. 週間予定

小児病棟・外来診療・処置/救急当番とNICUの業務を並行して研修します。

|             | 月曜日  | 火曜日          | 水曜日                          | 木曜日          | 金曜日 | 土・日 |     |
|-------------|--|--------------|------------------------------|--------------|-----|-----|-----|
| 8:00 - 8:30 | 受け持ち患者情報の把握  |              |                              |              |     |     | 日当直 |
| 8:30- 12:00 | 病棟業務<br>産科病棟にて新生児回診(週に1~2回)<br>外来診療(週1-2回)<br>処置/救急当番(週1-2回)<br>8:30 - 9:00 NICUでカンファレンス |              |                              |              |     |     |     |
| 12:00-13:00 |  |              |                              |              |     |     |     |
| 13:15-14:00 |  | 一般病棟<br>症例検討 |                              | NICU<br>症例検討 |     |     |     |
| 14:00-17:00 | 病棟業務<br>外来診療<br>処置/救急当番(週1-2回)<br>乳幼児健診(4ヵ月健診または7ヵ月健診:2週に1回)<br>看護学校講義(年に4回)             |              |                              |              |     |     |     |
| 17:00-17:15 | 夕の申し送り   |              |                              |              |     |     |     |
| 17:30-19:00 | 周産期<br>カンファ<br>レンス   |              | 勉強会<br>(症例検<br>討、予演、<br>抄読等) |              |     |     |     |

#### 4. 指導医・スタッフ

|     |   |
|-----|---|
| 医師名 | 港 敏則 / MINATO, Toshinori / S63 卒  |
| 役職名 | 小児科部長   |
| 専門  | アレルギー疾患、心身症、血液、腫瘍   |
| 認定  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 公益社団法人 日本小児科学会 小児科指導医</li><li>• 社団法人 日本アレルギー学会 アレルギー専門医</li><li>• 日本小児心身医学会 指導医</li></ul> |

|     |   |
|-----|---|
| 医師名 | 上田 雅章 / UEDA, Masaaki / H11 卒   |
| 役職名 | 但馬こうのとり周産期医療センター副センター長 兼 新生児科部長   |
| 専門  | 新生児   |
| 認定  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 公益社団法人 日本小児科学会 小児科指導医</li><li>• 社団法人 日本周産期・新生児医学会 周産期(新生児)指導医</li></ul> |

|     |   |
|-----|---|
| 医師名 | 藤林 洋美 / FUJIBAYASHI, Hiromi / H14 卒                                     |
| 役職名 | 医長  |
| 専門  | 発達行動  |
| 認定  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 公益社団法人 日本小児科学会 小児科専門医</li></ul> |

|     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 医師名 | 鴨井 良明 / KAMOI, Yoshiaki / H22 卒 |
| 役職名 | 医長                              |
| 専門  | 小児科一般                           |
| 認定  |                                 |

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 医師名 | 南部 静紀 / NANBU, Yoshinori / H25 卒 |
| 役職名 | 専攻医                              |
| 専門  | 小児科一般                            |
| 認定  |                                  |

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 医師名 | 山内 悠輔 / YAMAUCHI, Yusuke / H27 卒 |
| 役職名 | 嘱託専攻医                            |
| 専門  | 小児科一般                            |
| 認定  |                                  |

|     |   |
|-----|---|
| 医師名 | 許 永龍 / KYO, Eiryu / S58 卒   |
| 役職名 | 嘱託医   |
| 専門  | 小児循環器、小児科一般   |
| 認定  | <ul style="list-style-type: none"> <li>公益社団法人 日本小児科学会 小児科指導医</li> </ul> |

|     |  |
|-----|--|
| 医師名 | 中治 倫子 / NAKAJI, Michiko / H16 卒                                      |
| 役職名 | 嘱託医  |
| 専門  | 小児循環器  |
| 認定  | <ul style="list-style-type: none"> <li>公益社団法人 日本小児科学会 専門医</li> </ul> |

## 5. 診療設備

●一般病院でよく遭遇するけいれん、呼吸障害、心身症患者に対して、多職種と連携し、また下記の機器を積極的に使用し、重症化の軽減に努めています。

- ① けいれんに対して:地域の最終病院である当院は、明らかなけいれん重積発作のみならず意識レベル低下や異常行動など様々な神経症状を呈する児が紹介・搬送されてきます。臨

床症状ではけいれんの判断が困難な症例も多いため 24 時間、いつでもモニタリングができるように病棟に持続脳波計(Neurofax®)を常備しています。

- ② 呼吸障害に対して:呼吸障害をきたした児が呼吸不全に至らないように、呼吸窮迫児に対して陽・陰圧体外式人工呼吸器(Biphasic Cuirass Ventilation: RTX®)を積極的に使用しています。また呼吸不全に至る多くの病態に気道クリアランスの低下が関与するため、理学療法士と連携して積極的に呼吸理学療法を行うとともに、肺内パーカッションベンチレータ(Intrapulmonary percussive ventilation: IPV®)や咳介助機器(Cough assist E70®)を用い気道内分泌物の排泄を進め呼吸障害の改善に努めています。
- ③ 心身症患者に対して:小児専門の心理士と連携して診療にあたっています。主に児に対しては描画療法、遊戯療法など行い内面整理を行うと共に、家族、教育機関、保健機関との面談で環境整備を行っています。また必要に応じて WISCI-V の発達評価を行い療育機関への橋渡しをおこなっています。

#### ●NICU

##### ①呼吸管理設備

新生児呼吸障害管理のため、種々の呼吸管理設備を整備しています。

- ・新生児用人工呼吸器(Babylog VN500、Babylog 8000 plus、Humming vue)
- ・NCPAP システム(Infant Flow SiPAP、SLE1000)
- ・高流量鼻カニューラ酸素療法(HFNC)

##### ②新生児低体温療法・aEEG

重症新生児仮死に伴う低酸素性虚血性脳症の治療として、適応症例には ArcticSun 5000 を用いた新生児低体温療法を施行しています。

低体温療法施行症例や新生児けいれん症例に対しては、脳波計(Nicolet One)を用いて持続脳波、aEEG のモニタリングを行っています。

##### ③一酸化窒素吸入療法

新生児遷延性肺高血圧症の治療として、必要症例には一酸化窒素吸入療法(iNO)を施行しています。

## 6. 診療実績

### 概略

外来患者は午前と午後併せて平均約 70 名前後です。入院患者は、一般病棟で毎年 400~500 名、NICU で 100~150 名を推移しています。一方、小児外科疾患や、高度な専門的治療が必要な症例も月 1~2 人みられ、救急車を使って約 2 時間かけて兵庫県立こども病院などの 3 次医療機関へ搬送しています(条件があれば防災ヘリなどを利用)。

病院外来数、入院患者数はそれほど多くありませんが、地域で唯一の入院対応病院かつ高度な検査が可能な病院であり、小児を 24 時間対応しなければならない唯一の病院であること、未経験の希少疾患に対応しなければならないこと、NICU を含めた小児全般の緊急時の対応が要求されること、更なる高次医療が必要の際に専門病院へ状態の悪い重症児を数時間かけて搬送しなければならないこと等々から地域医療の難しさを経験していただけたと思います。

#### ●外来診療について

外来は 3 診制で、午前は主に一般外来、午後は専門外来と一般外来(月、水、金のみ)を並行して行っています。

専門外来は、慢性疾患(腎臓・膠原病・内分泌など)、アレルギー、神経、発達行動、心身症、心臓、低身長、予防接種などのほか、小児科専属の心理士 1 名を配置しカウンセリングを実施しています。

#### ●在宅医療、終末医療について

近年、医療技術の進歩で在宅医療の児が増えてきています。当院でも平成 29 年 4 月現在で在宅人工呼吸管理中の児が 5 名、在宅中心静脈栄養管理中の児が 1 名、在宅胃瘻管理中の児が 5 名、在宅酸素療法中の児が 10 名前後など在宅医療も担っており、種々の制限はありますがショートステイにも対応しています。また、終末期の看取りを在宅で行う体制も整えつつあります。

#### ●一般病棟入院診療について

気管支炎・肺炎・気管支喘息・痙攣・川崎病をはじめ、ほぼ全ての小児科疾患に対応しています。一方、悪性腫瘍やインフルエンザ脳症など重篤な疾患については、神戸大学病院、兵庫県立こども病院などの高次病院と密に連絡をとりながら治療介入し、必要に応じて搬送を行っています。また小児外科医不在のため小児外科の介入が必要な疾患は、状態を安定させた後、高次病院への搬送を行っています。

以下、年度別の患者数推移を示します。

#### 小児科診療実績(入院症例)

|     |       | 2011 年度 | 2012 年度 | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 |
|-----|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 感染症 | 呼吸器   | 150     | 203     | 134     | 148     | 142     |
|     | 消化器   | 26      | 23      | 37      | 24      | 39      |
|     | 中枢神経系 | 6       | 3       | 7       | 5       | 6       |
|     | 腎泌尿器  | 7       | 15      | 14      | 12      | 10      |
|     | その他   | 18      | 24      | 21      | 26      | 35      |

|         |               |     |     |     |     |     |
|---------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| アレルギー疾患 | 気管支喘息発作       | 26  | 21  | 26  | 28  | 55  |
|         | その他           | 7   | 7   | 7   | 2   | 4   |
| 消化器疾患   | 腸重積症          | 6   | 2   | 4   | 3   | 4   |
|         | その他<br>(重複あり) | 3   | 5   | 46  | 57  | 45  |
| 免疫疾患    | 川崎病           | 14  | 15  | 23  | 20  | 10  |
|         | その他<br>(重複あり) | 4   | 10  | 11  | 7   | 6   |
| 神経疾患    | 熱性けいれん        | 19  | 25  | 27  | 29  | 30  |
|         | その他           | 15  | 26  | 30  | 19  | 33  |
| 代謝内分泌疾患 | (重複あり)        | 11  | 7   | 36  | 15  | 24  |
| 循環器疾患   |               | 3   | 0   | 4   | 1   | 2   |
| 血液腫瘍性疾患 |               | 6   | 6   | 5   | 2   | 4   |
| 泌尿器疾患   |               | 4   | 0   | 3   | 8   | 3   |
| 心身症     |               | 1   | 3   | 3   | 1   | 2   |
| その他     |               | 10  | 17  | 18  | 16  | 22  |
| 計       |               | 336 | 412 | 455 | 423 | 477 |

### ●新生児科(NICU)

但馬地域では年間約 1200 人の新生児が誕生していますが、早産児・低出生体重児や呼吸障害など、生後早期に治療を必要とする児も少なからず認められます。

新生児科は、兵庫県北部唯一の周産期医療センターである「但馬こうのとり周産期医療センター」内の新生児集中治療室(NICU)で、但馬全域の治療が必要な新生児を院内外より 24 時間体制で受け入れて治療にあたっています。

NICU はベッド数 6 床で、新生児用人工呼吸器 6 台、血液ガス分析装置や超音波診断装置などを備え、内科的治療で対応可能な新生児に関しては在胎週数・出生体重を問わず受け入れています。また、新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法や重症新生児仮死に対する新生児低体温療法などの特殊治療にも対応し、可能な限り地域内で治療を完結できるよう心掛けています。外科的治療が必要な先天性心疾患や消化器疾患に関しては、診断・初期治療を行ったうえで治療可能な関連医療機関への新生児搬送を行っています。

また、地域全体で新生児救命率の向上および児の後遺症なき生存を目指すべく、院内外の医師・助産師・救急救命士の方々を対象に、新生児蘇生法(NCPR)の講習会を定期的を開催しています。

日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度の新生児認定施設(指定施設)に認定されており、周産期(新生児)専門医取得のための研修を受けることも可能です。

以下、年別の患者数推移を示します。

#### NICU 診療実績

|                            | 2011 年度 | 2012 年度 | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 |
|----------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 超低出生体重児<br>(出生体重 1000g 未満) | 2       | 2       | 6       | 1       | 4       |
| 極低出生体重児<br>(出生体重 1500g 未満) | 5       | 2       | 3       | 1       | 5       |
| 早産児・低出生体重児                 | 34      | 21      | 35      | 29      | 24      |
| 呼吸障害                       | 8       | 24      | 27      | 31      | 23      |
| 新生児黄疸                      | 9       | 18      | 18      | 5       | 4       |
| 嘔吐・哺乳不良                    | 16      | 16      | 10      | 16      | 24      |
| 新生児仮死                      | 6       | 13      | 7       | 10      | 12      |
| 染色体異常など                    | 6       | 3       | 4       | 7       | 2       |
| 先天性心疾患                     | 7       | 0       | 3       | 3       | 2       |
| その他                        | 12      | 12      | 12      | 24      | 23      |
| 計                          | 105     | 111     | 125     | 127     | 123     |

## 7. 主な業績

### 発表実績 H28 年 1-12 月

#### 【著書・論文】

港 敏則

心身症としての小児気管支喘息  
アレルギーの臨床 36(7):17-21,2016

港 敏則

喘息と間違えてはいけない疾患は？(学童期以降)  
喘息発作のコントロールが良くないときにはどうしたらよいですか？  
総合小児医療 専門医が答えるアレルギー疾患 Q&A(中山書店) 18-20,62-65,2016

#### 【学会発表(県単位以上)】

第 13 回日本小児心身医学会関西地方会 和歌山 2016.1.24

心理室での母児相互交流が不登校改善に有用であった 2 症例  
港敏則、藤林洋美、高橋みどり

第 29 回近畿小児科学会 大阪 2016.3.6

反復した肺炎球菌性髄膜炎の原因として内耳奇形が考えられた一男児例



鴨井良明、大野茜子、片岡大、山田博之、藤林洋美、上田雅章、遠藤剛、藤原敬三、  
港敏則

第 268 回日本小児科学会兵庫県地方会 神戸 2016.5.28

喘息大発作による呼吸性アシドーシスに陰陽圧体外式人工呼吸器(BCV)の control mode  
が著効した1例

片岡大、幸伏寛和、榎本真由子、鴨井良明、中治倫子、藤林洋美、上田雅章、港敏則

15th International congress on pediatric pulmonology Napoli Italia 2016.6.24-26

Investigation of the efficacy of biphasic cuirass ventilation for children hospitalized  
with a moderate bronchial asthma

Toshinori Minato, Yoshiaki Kamoi, Dai Kataoka, Hiroyuki Yamada,  
Hiromi Fujibayashi, Masaaki Ueda, Kuniyuki Okada

第 33 回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 仙台 2016.7.16-17

外来での小児気管支喘息発作児に対する Biphasic Cuirass Ventilation の有効性について  
港敏則、大野茜子、片岡大、鴨井良明、山田博之、中治倫子、藤林洋美、上田雅章

第 34 回日本小児心身医学会 長崎 2016.9.9-11

母児相互交流が不登校改善の一助と考えられた中学女児例  
港敏則、藤林洋美、高橋みどり

第 269 回日本小児科学会兵庫県地方会 姫路 2016.9.17

NICU 入院時に皮膚培養で GBS(Group B streptococcus)陽性を示した新生児への  
対応策の検討

幸伏寛和、榎本真由子、片岡大、鴨井良明、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 49 回日本小児呼吸器学会 富山 2016.10.28-29

呼吸窮迫状態の乳児に対し外来で実施した Biphasic Cuirass Ventilation 短時間使用の  
有効性について

港 敏則、幸伏寛和、片岡大、榎本真由子、鴨井良明、中治倫子、藤林洋美、上田雅章

【研究会・懇話会・講演会など】

第 66 回但馬地区小児科医懇話会 豊岡 2016.2.27

小児循環器疾患診断への当院でのアプローチ ～紹介していただいた症例からの考察～  
中治倫子、大野茜子、片岡大、鴨井良明、山田博之、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 66 回但馬地区小児科医懇話会 豊岡 2016.2.27

サイトカインプロファイルが診断に有用であった不全型川崎病の一例

鴨井良明、大野茜子、片岡大、山田博之、中治倫子、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 67 回但馬地区小児科医懇話会 2016.7.23

下垂体茎断裂症候群に伴い汎下垂体機能低下症を来した一例

榎本真由子、片岡大、幸伏寛和、鴨井良明、中治倫子、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 68 回但馬地区小児科医懇話会 2016.11.19

呼吸器感染症罹患時の管理に難渋した TAPVR 根治術後の男児の一例

鴨井良明、幸伏寛和、榎本真由子、片岡大、中治倫子、藤林洋美、上田雅章、港敏則

## **発表実績 H27 年 1-12 月**

### **【論文発表】**

Two Japanese Patients with SMA Type1 Suggest that Axonal-SMN May Not Modify the Disease Severity

Pediatric Neurology 52(2015) 638-641

Hiroyuki Yamada, Hisahide Nishio, Toshiro Maihara, et al

### **【学会発表】**

第 264 回日本小児科学会兵庫県地方会 尼崎市 平成 27 年 2 月 14 日

良性新生児睡眠時ミオクローヌスの一例

◇山田博之、鴨井良明、徳田央士、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 28 回近畿小児科学会 大阪市 平成 27 年 3 月 1 日

免疫グロブリンによる定期投与で寛解維持を目指している寛解再発型慢性炎症性脱髄性多発神経炎の一例

◇徳田央士、鴨井良明、山田博之、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 28 回近畿小児科学会 大阪市 平成 27 年 3 月 1 日

当科における過去 10 年間の細菌性髄膜炎入院症例の臨床的検討

◇鴨井良明、徳田央士、山田博之、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 265 回日本小児科学会兵庫県地方会 神戸市 平成 27 年 5 月 30 日

胎児循環下に胸腔穿刺を行い蘇生処置を施行した非免疫性胎児水腫の 1 例

◇上田雅章、片岡 大、鴨井良明、山田博之、藤林洋美、港敏則

第 32 回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 横浜市 平成 27 年 6 月 20 日

ワークショップ

小児気管支喘息発作児に対する Biphasic Cuirass Ventilation の有効性について

◇港敏則、鴨井良明、徳田央士、山田博之、中治倫子、藤林洋美、上田雅章

14<sup>th</sup> International congress on pediatric pulmonology Krakow Poland

平成 27 年 6 月 25 日～28 日

Investigation of the efficacy of an external ventilation(RTX<sup>®</sup>)for children hospitalized with respiratory disorders

◇Toshinori Minato<sup>1)</sup>, Yoshiaki Kamoi<sup>1)</sup>, Oshi Tokuda<sup>1)</sup>, Hiroyuki Yamada<sup>1)</sup>, Hiromi Fujibayashi<sup>1)</sup>, Masaaki Ueda<sup>1)</sup>, Kuniyuki Okada<sup>2)</sup>

1)Toyooka Hospital(Hyogo)

2)OKADA Kodomonomori Clinic(Saitama)

第 33 回日本小児心身医学会学術集会 東京都渋谷区 平成 27 年 9 月 11 日～13 日

作品制作により自尊感情を高めることができ登校可能となった発達障害の 14 歳女児例

◇港敏則、藤林洋美、高橋みどり<sup>1)</sup>

1)心理士

第 266 回日本小児科学会兵庫県地方会 姫路市 平成 27 年 9 月 26 日

低身長を主訴に受診し下垂体茎断裂症候群に伴う汎下垂体機能低下症と診断した 1 例

◇山田博之、茂木千聡、片岡 大、鴨井良明、藤林洋美、港敏則、上田雅章

第 266 回日本小児科学会兵庫県地方会 姫路市 平成 27 年 9 月 26 日

化膿性筋炎加療中に股関節炎の合併が疑われた一女児例

◇茂木千聡、山田博之、片岡 大、鴨井良明、藤林洋美、港敏則、上田雅章

第 25 回日本小児リウマチ学会 金沢市 平成 27 年 10 月 9～11 日

発症早期にマクロファージ活性化症候群を呈した若年性皮膚筋炎の 1 例

◇小川侑子<sup>1)</sup>、謝花幸祐<sup>1)</sup>、岡本奈美<sup>1)</sup>、玉井浩<sup>1)</sup>、鴨井良明<sup>2)</sup>、港敏則<sup>2)</sup>

1)大阪医科大学 小児科

2)公立豊岡病院組合立豊岡病院小児科

第 48 回日本小児呼吸器疾患学会 倉敷市 平成 27 年 10 月 23 日～24 日  
鼻孔マスク下 BiPAP A40®の導入で気管切開を回避できた睡眠時無呼吸症候群合併の重症心  
身障がい児例

◇港敏則、片岡 大、鴨井良明、山田博之、中治倫子、藤林洋美、上田雅章

第 48 回日本小児呼吸器疾患学会 倉敷市 平成 27 年 10 月 23 日～24 日  
Nasal high flow therapy と Biphase cuirass ventilation を併用して呼吸管理を行った症例の検討

◇山田博之、片岡 大、鴨井良明、中治倫子、藤林洋美、上田雅章、港敏則

#### 【研究会発表】

第 63 回但馬地区小児科医懇話会 豊岡市 平成 27 年 3 月 14 日

多動を伴わない注意欠損障害の 13 歳男児でのメチルフェニデート及びアトモキセチンの使用感

◇藤林洋美、山田博之、鴨井良明、徳田央士、上田雅章、港敏則

第 64 回但馬地区小児科医懇話会 豊岡市 平成 27 年 7 月 4 日

反復した肺炎球菌性髄膜炎の一例

◇鴨井良明、山田博之、片岡大、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 64 回但馬地区小児科医懇話会 豊岡市 平成 27 年 7 月 4 日

診断に苦慮している痙攣性疾患の 3 例

◇山田博之、鴨井良明、片岡大、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 65 回但馬地区小児科医懇話会 豊岡市 平成 27 年 11 月 7 日

予防接種後に HSP を発症した生後 3 ヶ月男児例

◇片岡大、山田博之、鴨井良明、藤林洋美、上田雅章、港敏則

第 65 回但馬地区小児科医懇話会 豊岡市 平成 27 年 11 月 7 日

RSV 感染症の入院症例の検討～呼吸管理を中心に～

◇山田博之、片岡大、鴨井良明、藤林洋美、上田雅章、港敏則

## 8. 学会認定施設

小児科専門医研修施設として日本小児科学会より認定されています。また日本周産期・新生児  
医学会周産期専門医制度の新生児認定施設(指定施設)にも指定されており、周産期(新生児)  
専門医取得のための研修を受けることも可能です。

## 9. 連携するプログラム

### ・神戸大学小児科専門研修プログラム

基幹施設: 神戸大学医学部附属病院

公立豊岡病院での研修モデル

|  |   |   |  |   |
|--|---|---|--|---|
| 小児科中核病院において新生児・血液腫瘍疾患・腎・神経・筋代謝内分泌等の専門性の高い疾患に関して知識と診療技能を修得する。将来のSubspecialty領域選択における足がかりとなる経験をする。 | 地域小児医療センターかつ総合周産期医療センターにおいて、あらゆる急性疾患への対応や慢性疾患の診断・治療に従事する小児科医として必須の知識と診療技能を修得する。 | 地域小児医療センターかつ総合周産期医療センターにおいて、あらゆる急性疾患への対応や慢性疾患の診断・治療に従事する小児科医として必須の知識と診療技能を修得する。 | 小児中核病院であり、兵庫県の3次救急医療の要である病院であり、かつ小児医療の集約される基幹病院において、高次医療を経験する。 | 地方都市の主要病院小児科として、あらゆる急性疾患への対応や慢性疾患の診断・治療に従事する。高次医療が必要な場合、後方病院へ搬送の判断を遅滞なく行う。関連施設においては地域医療や療育などの分野を経験する。   |
| 6～12カ月   | 12～30カ月   | 12～30カ月   | 6～12カ月   | 6～12カ月  |
| 神戸大学医学部附属病院<br>(基幹施設)  | 加古川中央市民病院   | 姫路赤十字病院   | 県立こども病院  | <b>公立豊岡病院</b><br>高槻病院、千船病院、済生会兵庫東病院、北播磨総合医療センター、六甲アイランド甲南病院、神戸市立西市民病院、明石医療センター、神戸こども初期急病センター、県立柏原病院、県立淡路医療センター、姫路聖マリア病院、神戸医療センター、神戸掖済会病院、姫路市総合福祉通園センター、にこにこハウス医療福祉センター、愛仁会リハビリテーション病院、神戸市総合療育センター |

プログラム・資料請求に関する問い合わせ先:

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5番1号

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野(担当: 講師 永瀬裕朗)

電話: 078-382-6090(小児科医局)

FAX: 078-382-6099

e-mail: nagase@med.kobe-u.ac.jp

Website: <http://www.med.kobe-u.ac.jp/pediat/>

### ・兵庫県立こども病院小児科専門医研修プログラム

基幹施設: 兵庫県立こども病院

公立豊岡病院での研修モデル

|                              |                                   |   |             |                                      |
|------------------------------|-----------------------------------|---|-------------|--------------------------------------|
| 救急総合診療科を軸として、院内各診療科をローテートする。 | 地域に密着した医療を中心とした一般小児科診療            | 都市部の二次病院におけるほぼ全分野をカバーした小児科診療                                | 高度専門医療      | 療養・リハビリなど障がい児医療                      |
| 21～30カ月                      | 6～12カ月                            | 0～3カ月   | 0～3カ月       | 0～3カ月                                |
| 兵庫県立こども病院                    | <b>公立豊岡病院</b><br>淡路医療センター<br>柏原病院 | 尼崎総合医療センター<br>兵庫県立西宮病院<br>神戸市立医療センター中央市民病院<br>神戸市立西神戸医療センター | 神戸大学医学部附属病院 | にこにこハウス医療福祉センター<br>兵庫県立光風病院児童思春期センター |

プログラム・資料請求に関する問い合わせ先:

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7

兵庫県立こども病院 総務部総務課(専攻医公募係)

電話:078-945-7300

FAX:078-302-1023

e-mail:kodomo\_hos@pref.hyogo.jp

Website: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

・兵庫県立尼崎総合医療センター小児科研修プログラム

基幹施設: 兵庫県立尼崎総合医療センター

公立豊岡病院での研修モデル

|   |  |  |                     |                                   |
|---|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| 小児科全分野<br>新生児医療<br>小児救急医療<br>小児集中治療<br>小児外科<br>産科 | 骨髄移植などの高度医療<br>新生児<br>小児放射線<br>内分泌<br>免疫<br>循環器<br>生殖器 | 小児保健<br>地域総合医療   | 精神行動<br>心身医学<br>思春期 | 重度心身障害<br>在宅医療<br>リハビリテーション医療     |
| 18～33カ月   | 2～12カ月   | 3～6カ月  | 1～3カ月               | 1～3カ月                             |
| 兵庫県立尼崎総合医療センター                                    | 京都大学医学部附属病院<br>兵庫県立こども病院                               | <b>公立豊岡病院</b><br>県立淡路医療センター、県立柏原病院、<br>県立西宮病院、市立伊丹病院、市立芦屋<br>病院、宝塚市立病院、近畿中央病院、尼崎<br>医療生協病院、ペリタス病院、明和病院、<br>関西労災病院、三田市民病院、市立川西<br>病院、宝塚第一病院 | 兵庫県立光風病院            | 兵庫あおの病院<br>西宮すなご医療福祉センター<br>森之宮病院 |

プログラム・資料請求に関する問い合わせ先:

〒660-8550 尼崎市東難波町二丁目 17 番 77 号

兵庫県立尼崎総合医療センター

電話:06-6480-7000(代)

e-mail: [info@agmc.hyogo.jp](mailto:info@agmc.hyogo.jp)

Website: <https://agmc.hyogo.jp>

・高槻病院小児科専門研修プログラム

基幹施設: 愛仁会高槻病院

公立豊岡病院での研修モデル

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 小児科の全ての領域をくまなく経験し、小児科医として必須の知識と診療技能を修得する。<br>(基幹施設) | 亜急性期から慢性期の小児医療、在宅医療、福祉制度について研修する。(地域医療研修①) | 手術を必要とする心疾患、神経疾患、消化器病、膠原病等の専門性高い疾患に関して知識と診療技術を習得する。(地域医療研修①) | あらゆる病態が一施設に集中する地方総合病院ならではの診療を経験する。精神・心理疾患も習得できる。(地域医療研修②) |
| 24～30ヵ月   | 3ヵ月  | 3～12ヵ月   | 3～6ヵ月   |
| 高槻病院  | 愛仁会リハビリテーション病院                             | 大阪医科大学病院   | 公立豊岡病院  |

|                               |   |  |
|-------------------------------|---|--|
| 一般小児、新生児ともに、高度医療に偏らない診療を経験する。 | 腎・神経・筋疾患等の専門性の高い疾患に関して知識と診療技術を習得する。(必要に応じて研修) | 血液・がん等の専門性の高い疾患に関して知識と診療技術を習得する。(必要に応じて研修) |
| 3～6ヵ月                         | 3～12ヵ月  | 3～12ヵ月                                     |
| 明石医療センター                      | 神戸大学医学部附属病院                                   | 兵庫県立こども病院                                  |

プログラム・資料請求に関する問い合わせ先:

〒569-1192 大阪府高槻市古曽部町1丁目3番13号

電話 072-681-3801(代表)

FAX 072-682-3834

e-mail: welcome@ajk.takatsuki-hp.or.jp

Website: <http://www.takatsuki.ajinkai.or.jp/>